

2026年2月3日 実施

東海大学②

一般 英語

# 解答速報

医学部専門予備校  
医学部特訓塾

# 医特

1

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
ア	エ	エ	イ	ア	ウ	ア	ウ
問9	問10	問11	問12	問13			
イ	ウ	ウ	イ	1. F	2. F	3. T	4. T

2

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ア	エ	イ	ウ	ア	イ	ウ	イ	エ	ア

3

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ウ	エ	エ	ウ	ア	イ	エ	ウ	イ	ウ

4

1	2	3	4	5	6	7	8
ア	エ	エ	ウ	ア	イ	エ	イ

5

1	2	3	4
ウ	ア	エ	エ

6

1	2	3	4
エ	ウ	エ	エ

7

(1)	雲の動きや海鳥の飛行方向などのわずかな手がかりから、彼らは広大な太平洋に離れて点在する [散在する] 島々をようやく見つけることができたと考えられていた。
(2)	これらの探検家たちの旅は人類史上最も目を見張る [驚くべき] 航海の一つに違いないが、そもそも彼らがなぜ未知の世界へ出ていったのかという疑問の答えは、未だ謎のままである。

8

(1)	The larger the population is, the more opportunities of genetic mutations and natural selection it has [enjoys]. [別解] When a species has a larger population, it is blessed with a greater number of opportunities of genetic mutations and natural selection.
(2)	Faster speed of evolution [A faster speed of evolution] of a species, of course, does not necessarily mean that it becomes more intelligent or more able to make tools. [別解] Of course, the speed of evolution does not always lead to [bring about / favor] higher [superior] intelligence and greater abilities for tool making.

## 【講評】

- 1: 「世界的な真水の危機とその対応策」について論じた長文問題。どの選択肢も本文の該当箇所に依拠して正確に消去判断をしたい。(昨日の本大学 1 日目のテーマより) 今日の長文テーマは理解しやすく、日頃の学習でも出くわす頻度の高そうなテーマだったので、受験生も取り組みやすかったはずであろう。
- 2: 文法・語法 4 択問題。問 3 の、動詞の単数一致を根拠に“many a 単数名詞”を選ばせる問題は注意力が必要だった。どの問題も市販テキストに掲載されているレベルで、例年と同じ平易な難易度。全ての範囲を満遍なく学習して万全な準備をしておけば、判断に困る問題はなかったはず。
- 3: 語句同意表現の 4 択問題。近年難しめの語句も見受けられるようになっているが、昨日実施の試験より判断のしやすい問題が多かった。文脈を正しく把握し、必要なら消去法も駆使して、ミスを最小限に留めることが重要。
- 4: 会話文問題 2 題。一つめは「盲検試験に関する期末レポートについて話す大学生の会話」、二つめは「利益回復のためのメニュー変更についての 2 人のシェフとサーバーの議論」がテーマであった。全体を読み切ってから判断せねばならない問いが多いが、例年と比べて時間のかかるクロスリファレンス処理は少なかった印象。
- 5: 文整序問題。指示語・ディスコースマーカーなどを駆使しながら想定される文脈を考えれば、容易に順序を決められるものばかりだった。
- 6: 図表問題。内容も問いも平易なものなので、時間をかけずに満点を取りたい。
- 7: 和訳問題。「ポリネシア島の発見」に関する英文。構造は難しいものではないものの、きれいでなおかつ文脈に即した日本語にするために策を練らねばならない箇所が一部あるのは例年通り。(the flight of seabirds 「海鳥の飛行方向」、widely scattered islands in the vast sea 「広大な海に散在する島々」、the unknown 「未知の世界」、S is an enduring mystery 「S は未だ謎のまま」など。) その他、(1)の倒置構文、(2)の among ~ (=one of ~) の用法や、同格の of を正確に処理して、和訳を構築することがポイントだった。
- 8: 英作文問題。「ヒトとチンパンジーの進化比較」に関する英文。「遺伝子変異」、「自然淘汰」など、読解文でよく目にする語句・表現を使うことができたかどうかで自然な英文か否かに差が出る。さらに、今回の作文は 2 題とも文体選びが重要であった。主語・動詞をどのように設定すれば、和文の内容を表現する適切で自然な英文になるかのシミュレーションを行ったうえで作文に取り掛かることで、英作文のしやすさが生まれたのではないだろうか。

大問構成はここ数年と変化がなかった。全体として、例年よりやや易化した印象の大問もあることから、合格には 75 パーセントを目指したい。